# 平新報

毎月10日發行
編輯兼發行印刷人 山野邊庄吉
磐城市岩出字向二八
發行所 平新報社
一部定價拾円送料四円

## 題す、創刊紙齢第三百号

### 反省せざる道、法不感症共は毒刃を向けて來る
### 破邪顯正は再展開して勸善懲悪の筆陣

平新報 山野邊眞立

◎柴燈護摩は悪いと報じたに對し諸橋平市長は何か会計さんから抗議があつたらしく筆者に不服らしく口吻をもらしたが、表現が足りなかつたので『評判が惡い』と訂正して置く

◎諸橋元三郎氏は私の原告告訴状に對し料亭『新米』等と想像して書くものでないとの事だが證人筆頭の西丸猛翁が新米で会合したとハッキリ言明して居る、筆者は口では想像した事も言うかも知れぬが一旦文字にする場合貧爾せざる事はものせぬ立前である会計さんは酒の上〳〵と申すが、筆者は酒の上でも對者によつて紳士と見て信用する、猛翁でも然り翁は町議もやれば相當の地位の人であり、年長者である、翁を人格者と尊敬して信じて居るのである、翁が二枚舌を使うとすれば、それは翁自身が自ら卑下するものだ、政党者流はヨクウソを吐くそうだが、会計さんたるもの酒の上等とはこれから言動せぬ事だ、要は筆者が口ぐるまに乗つた事が馬鹿となるか呵々

◎山田氏に最近相談致したき件あり數回訪れたが門前拂ひを喰つた、筆者は斷じて面会は強要せぬ、氏は明朗な人でない事は事實が物をいう、人は地位をかいて考うべきで、山田氏は岩出に筆者を訪ねる事なんかあり得ない事だが、萬一筆者が面会を斷つたら先雅山田さんどんな氣持になる

◎婦人会長とか、PTA会長とか、長のつく人は尊敬さるべき人格者であらねばならぬ、（營利会社の社長は別だが）婦道や。人の師表となれぬものが長の席に女アグラをかゝれては統制もとれなければ不平が出てくる、韓退之曰く『物その平を得ざれば即ち鳴る』公共團体の長たる者良心に立還れ！ 道徳的不感症者が磐城市にはウヨ〳〵して居る。

◎筆を採つて四十年「雑誌せいねんいわき」啓發運動ーこれは磐城青年統一会で刊行したもので、その折は故土屋寛氏（知美）が磐城時報を出して居つた、國井末吉氏が磐城之青年、川崎文治氏（小島）が磐城之學友という少年向きの清水屋清光堂からその折は故關内米三郎氏（關内彦太郎氏の父）が責任者であつた、一方通信記者、報道陣に福島民報後日に朝日入りをした故八代公行氏、報知に故湯山幸太郎氏甫人故半谷政喜氏國民この頃故人となつた吉屋貞二さん、大和田與兵衛氏は福島新聞、民友金子木南氏、一方販売戰では故吉田禮次郎氏、磐城通信社は小野務平氏、一方詩人で激会に故山村慕鳥氏、花岡謙二氏も居られたが此の人は存命かどうか、せいねんいわき、啓發運動では、帝都からは橋本徹馬、尾崎段山、今は王郎と號して居る樣だ、こういう人に寄稿してもらつたものだ、その折白銀町の故吉田總次郎氏、紺屋町の故白井博之氏を訪ねた事がある、白井氏をおとづれて今尚ほ印象づけられるは、今磐城跡本丸に在る、平安倶樂部の玄關に在る二枚びようぶのツイ立である、筆の趨るまゝに横道に外れたが、朝鮮では群山日報、湖南日報、全北日報等に筆を採つた、（後先あとさき四十年に初めて名譽毀損罪で野崎藤太、丹野作平、長瀬光三の三者から被告訴人にされた新聞雑誌は脅迫するものが常識だが、筆者眞立は反對に脅迫された生命をおびやかされる!!! 恐怖心を感ずる、「生かしておかぬ」とは何も肉体的許りでなく、社会的であるかも知れぬ、かつて八年前長瀬彦義の謀略に逢つて玉川農業協同組合長を自ら辭任するを得ざる事になつた、彼はこういう事をやりかねる性格の持主である…から實際夜も安眠できぬ程、彼長瀬の奇策謀略を畏れるのである、八年前、村八分されたる事實は今尚は戰慄をおぼえるのである、思いば、恨みは深い!!! 村八分！玉川農業協同組合なるものは私が鈴木一男氏を動かして結成さしたものだ、それに協力したのは創立委員〇崎翁、起草委員として清氏等を推した然るに彼等は創立をして鈴木茂雄氏を初代組合長にしたが山丹問題等この件は長瀬農業会長時代からの連續不良貸し出しだが兎に角 兩鈴木、〇崎氏ら理監事としてガタ〳〵にして了つた事は逃げようとして逃げられぬ事實ではないか、不渡り小切手と申し、何々と列擧すれば限りがない、要は不純、不當なしと野太氏は斷言し得るか、筆者眞立を『どうかして居る』狂人！と駒木根忠三翁に公言する、野藤自らの言動が筆者の名譽を毀損して居らぬか、彼等は殊に〇野は公務員たるを忘れて居らぬか、物的立證なしと言うならば、それは錄音機のある今日、許せぬ放言、無禮切り捨て御免！封建時代に逆行の殿樣根情である、筆者はかつて売られぬ喧嘩に應じた事がない、挑まるれば大義名分に立脚して、これに應ずるのである

◎過去あつて現在あり、何事も繰り返すものである桶のユルんだタガはしめ直さねばならぬ、この意味で反省せざるもの、道徳不感（症）患者に對しては何回でも破邪顯正の筆を進むるが筆者の信條である、がどうしても邪悪どもは反省どころでない、毒刃を向けてくる、ここに勸善懲悪!!! 筆誅を加えざるを得ない、邪道を正道に向けねばならぬ私利私慾に良心がマヒして侵略する（地セブリ）東條以上の罪悪である、公德心等とは一毛だにない、こういう暴力言動を默認して居つたのでは社会公益上問題で世を暗くする事になる、筆者は陰（かげ）の聲（不平）を代辯し社会の正判を熱求するものである

◎朝日新聞に「役德（得）」物語りとして自治体の經費の乱費振りを統計的に公表してあつたが知事が東京に出張旅費、月三十萬円、磐城市長殊に議長の交際費なるものが昨年から比較して倍にもなつて居る、更正予算等と乱發した費用は全部修正なしに議会で認めて了うのか、縣市民税を負擔するもの三思四考を要する事で、磐城市議諸君は一レンタクショウと言われて居る一体議会人が市長という執行部へ深入りするのが悪い何事かあると磐城市民は小野や長瀬の自宅に陳情するこれが彼等をのぼせあがらせる！ 市民の五分の責任もあるのである喝！

學兄山野邊眞立君編輯月刊『平新報』第三〇〇號の刷行、これこそは、實に異常な努力の賜でなければなるまい。時に、金力に、權力に、鬪い勝つて長期に亙つて地方の文化と、産業經濟の正しき進路に、寄與せられた偉大な功績は、蓋し票を求めて、常に操を売る政治家共の到底なし得ざるもの茲に更めて深甚なる敬意を表す。

常磐市 鯨岡潔

◎〇野も〇瀬も新聞に關係し〇瀬の如きは某新聞の社長の席に居つた事もある〇野は筆の人、殊に漢詩を良くし、よく草野の名でビラをまいて居つた、相互に文、即ち筆で正邪の判別を社会の批判に問うべきである、殊に〇瀬〇野にそうあつて欲しい、今や平檢察廳に、原、被兩方とも廻つたのだから係り檢事が起訴するかどうかは判らぬが決り次第公判の內容と眞を相本紙上に公表を予告して置く

### 動中静観 片言隻語

眞立随筆

自治体の長たるものは一家にしても同じ事で家族から致敬され、この人ならすべてを任しても良いという市町村民が安心感をもち得る人であらねばならぬ、此の意味で吾が平市長諸橋久太郎氏は九十九點であろう。此の觀點から磐城市政を牛耳る〇長や〇役金魂議員連には市政を任しておけぬだろう所謂駒忠事件を起す事それ自体が邪道である、但し諸橋市長は論功賞をやらぬらしい、此處に不平が出て來る

◎駒忠事件で駒木根忠敬氏は法で勝つて〇で負けるだろう邪は正に勝つながいものにはまかれる、と（田町の猪狩四郎氏）はいう、猪狩氏は苦勞人らがつた事を予斷するものだ長蛇は長邪に通ず、眞立は眞理の下に立ち 邪は正に勝たず直は曲に勝ちぐりだと信ずるものである

◎呉越同舟という事があるが近頃は乘合自動車で呉越同車する事がある、眞立から挨拶してもソッポを向く、人間の狹量なる事、人は萬物の靈長とか、今日の挨拶あつてこそ人だ、禮儀なくしては動物化す、これも人心を暗くする事だ、道途上面と向つてのこの仕草はよく女性に在るものだが相當の地位に在る男がこれだから精神感情は球盤（そろばん）勘定の如く割り切れず、並行するものか、喝々

◎故諸根樟一氏が磐城文化史や多數の史書を遺したがその際に諸橋久太郎氏仝元三郎氏の援助あつた事を忘れてならぬ、最近藥谷廣之助氏の吾等の郷土でもその際の力、野崎滿藏翁の篤志があつたればこそである

◎問題になつて居る磐城市長選（昨年七月末）に對し全市齋藤司氏が選擧無効の訴へは福島縣選擧管理委員会から却下された事は既報の通りだが、此頃仙台高等裁判所に該会を相手とり選擧無効確認行政訴訟を提訴し四月十一日第一回辯論があつた、磐城市長三代義勝氏は辯護士島田武夫氏を代理人として補助參加した、該件は熱がさめた樣であるが愛市の市民は齋藤氏の勝訴を熱願して居る

◎駒忠事件も（民事準備公判）四月二十三日最終の準備公判となり五月に入つて公開公判となる理であつたが、草野氏の代理畠山氏が病氣入院中とあつて被告訴人の方から延期願いがあり延期となりつつあるが、平地裁の係柏木支部長の轉任もあり新任の梶村支部長も着任した事で五月末頃又復準備公判は開かれるであろうが、何が故にかく延期となるか不可抗と許り考えられぬ、筆者等は割り切れぬものがある加えて刑事問題は民事より一足先きに提訴したるにこれは取調べ中とある後の烏先にするのか世の批判は地裁平支部、殊に〇〇廳に向けられて居る

### 山崎賢助氏
#### 平商工会頭に再選

平商工会議所新議員による初の議員総会は去月十二日午後一時から平商工会館会議室に開き新役員を選出、会頭、副会頭はいづれも再選された（新役員次の通り）

会頭、山崎賢助（かみや）副会頭、太田竹二郎（磐城セメント四倉工場長）長谷川常吉、堀江工業社長）坂本昌識、坂本紙店社長）
◎專務理事、菅野四郎

## 鯨岡潔 略歴と信念

明治三十一生、磐中二八会員 製材業（四年間）

湯本郵便局長（拾七年間勤續）晋東商事の商號にて桐生 足利両毛地帯に石炭の販売を營む、八年間、平均年均高弐萬屯湯本青年團副團長、福島縣聯合青年團郡選出代議員復湯会幹事長、湯本源泉組合理事長、日本社会党右支部長、常磐商工協同組合事務理事、現合組合監事、第一回常磐商工会議所議員

最近地方に於ける大企業は、その利用政策を、順次保守的運營から、革新に替えて、行政上の諸便宜と、それを背景とした、脱税的經營上の諸負擔の輕減を企つて來た、これは恐るべき日本産業の邪道であり、その經濟の不均質を一層に甚しくするものだ。

このことは中産以下の農工商にとつて當面する大きな問題である。健康を失つたわたしには過分な課題だが社会の一要員として、若干その役割を果したい。

（寫眞は鯨岡潔氏）

## 賛援 平新報創刊第三百号

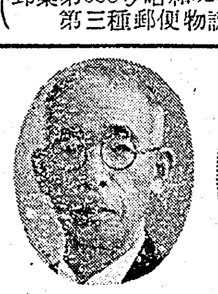
平消防団顧問 關内正一 平市二丁目
釜屋会計 諸橋元三郎 平市五丁目
辯護士 大嶺庫 平市十五丁目 電六一〇
伊關呉服店 伊關房次 平市二丁目角
県人事院委員長 蓮沼龍輔 平市田町
小名濱信用金庫理事長 志賀要平 小名濱港古港
ひかり座社長 堀江正敏 平市番匠町
銘酒【大平櫻】醸造元 大平酒造店 常磐市下湯長谷
八巻製綿所 八巻儀助 小名濱港後宿
常磐製藥株式会社専務 駒木根忠敬 平市大町二八 電一七六〇
平市会議員 小松茂 小松酒店 平市南町
そのべ薬局 薗部国安 平市一丁目
高萩医院 高萩浩 内郷驛前通り
篠山廉 平市舊城跡
平市長 諸橋久太郎 平市五丁目
野内建材商店 野内辰雄 平市四丁目

平市会議員 常磐商事株式会社取締役社長 鈴木勇 平市三丁目角
税理士 山野邊久利 平市仲町 電一三七三
福島縣共濟農業協同組合連合会理事 玉川農業協同組合組合長 駒木根忠三
常磐交通株式会社 野崎理夫 平市舊城跡
福島縣藝妓、藝妓屋組合会会長 白土喜伯 平市田町 電一二七
八千代 佐藤登美 平市田町 電三七五
金美好 会川喜美 平市田町 電四一九
山野邊電機商会 平市南町 電一、二三三・二六四 工場 平市北白土二
クリーニング、洗張 小松崎延 平市二丁目 電一三四三
平信用金庫監事 多田井笑次郎 平市大工町
伊勢屋商店 阿部唯次郎 平市四丁目
磐崎中学校長 鈴木武雄
磐崎小学校PTA会長 箱崎幸廣
常磐市議会議員 高萩佐久馬 湯本
常磐市議会議員 鈴木一男 上矢田
◉おしゃれのデパート クツミ洋品店 常磐市 電二二一

# 郷土愛と友人愛の結実

## 郷土史『我等の郷土』

蘂谷氏



野崎氏

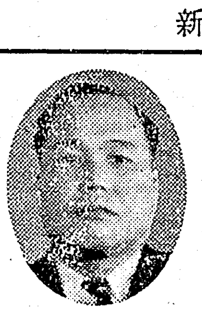
石城郡の郷土史「我等の郷土」の出版を喜ぶ 此の書は磐城市大字住吉出身の蘂谷廣之助氏が六十年ぶりで故郷に歸り年來懐げる郷土愛の結晶より成れるもので其の蔭には美わしい友人愛がもえている、それは著者の竹馬の友、常磐交通自動車株式会社々長野崎満藏氏の至大なる後援の恩義によるもので此の郷土愛と友人愛の二つから實れる本書はこれ迄にない編纂によるものである。

全篇通讀するに先づ上古日本國土の成立及び建國の由來より筆を起し又磐城に於ける往古の石炭層の出現より降て各時代の豪族英雄の歴史に及び猶各市町村の史跡名所神社佛閣につき隈なく調べ上げている、加うるに古來石城郡の生める偉人傑女の事蹟をも詳釈しているから此の書を讀むことによつてつぶさに我が郷土の全貌を知ることが出來る。著者蘂谷氏は本年八十四才の老人なるが永く東京に在つて小中女學校の教育に從事し年老いて望郷の念止みがたく歸郷の上學園を開き三年がかりで此の著を成すに至つたもので、目的は我が石城郡内の青少年達が本書を讀むことによつて自然愛郷愛村の念を涵養し奮つて崇祖興郷の道に歩まれん事を熱望するにあるといわれている、B6版三百十九頁で定價二百八十円である購讀希望の方は大字瀧尻双葉學園「我等の郷土」刊行会に申込まれたい。

（寫眞は著者蘂谷廣之助氏と野崎満藏氏）

# 駒忠事件の立主役

## 駒木根忠敬氏の事業經歴



昭和八年四月 星製藥福島支部長に就任

昭和十三年二月 星製藥東北理事長に就任

昭和十六年九月 平市三町目六番地の現店舗を（土地共）荻原廣氏より貳萬円を借受け四萬五千円で買受けホシ藥局を開設す

昭和十八年十月 平市五町目に星製藥福島工場を設立工場長に就任

昭和十九年十月 平高等女學校を學校工場にし四年生五年生約三百名を徴用し醫藥品特に注射藥の增產に邁進す右は終戰と共に閉鎖す

昭和二十年十月 福島縣化學工業会理事に就任す

昭和二十一年四月福島縣製藥協同組合を創立理事長に就任す、當時縣内には吳羽化學、中外製藥、其の他にて二十社あり

昭和二十一年十月 新星藥品工業株式会社を創立（資本金一二五萬円）社長に就任

昭和二十二年一月 平市大町二八番地に平工場三百五拾坪の工場完成就業す

昭和二十二年三月 平市佃町に百坪 延坪、建物を借り受けアンプル工場を施設す

昭和二十三年二月 水戸市西原町に硝子工場設置しアンプル用硝子管の製造を開始す

昭和二十三年五月 東京都日本橋本町に東京營業所を開設す

昭和二十三年九月 火星貿易株式会社を設立社長に就任和歌山縣田邊市にて生產される特殊釣針を米國に輸出す當時年額一五〇〇萬円位であつた、其の後順調な成績であつたが業務外忙の爲め二ヶ年で事務に讓渡した

昭和二十三年十一月 東北六縣の製藥業者が電力石炭其の他の原料資材等必需物資の入手が益々困難になり斯様な事では自滅する外なく東北六縣一丸となつて強力な運動の展開を必要とするに致り東北醫藥品工業協議会を結成（約五十社）会長に就任す

昭和二十四年三月 日本製藥團体連合会創立され東北地區を代表し常務理事に就任縣製藥協会理事長東北醫藥品工業協議会長を兼務す

昭和二十四年十一月 北海道の一手販売先星製藥北海道配給株式会社よりの約手約四百萬円が不渡になり經營困難を來す。又技術上の問題にて失敗あり、不良品による返品も出て七十七銀行に約九百萬円のこげ付が出た

昭和二十五年 七十七銀行の整理要求により個人資產を投入して一部負債を整理し主腦部に取締役会長）製藥化學の日本的權威者下山田秀雄社長の叔父）を迎へ取引先も製品も撰定した。先ず取引先に明治製藥、明治乳業 日本化學、台糖、東洋醸造等のペニシリン關係の協力工場として又中村瀧商店販売用のブドー糖注射藥の製造を引受け、工場の整備をなし、生產を開始した。中央大メーカー商社との取引に成功したので銀行も諒承し 約手を全部七十七銀行が割引くことになり其の金額の二割を銀行に積立て今后の金融の円滑を期することになり期末に業績を検討して預金に內入れする契約をなした。處が經營が軌道に乘ると間もなく支店長が代り新支店長になると新支店長は自分の方針だと云うことで從來の積立金も合せ今後の二割積立の分は全部預償務に入れとなし、必要資金があれば別に貸付けすると云うことにて立上り資金僅か百萬円で再出發した當社より一年二ヶ月間に五百四千萬円を取上げられ地方產業には珍らしい順調な經營になつたのに運營は益々苦しく給料の遅配、公租公課の滞納も續出し又復行きづまりの状態になつた

昭和二十六年十月 朝鮮事件擴大により米第八軍關係の入札を大会社と競爭して落札、強心劑止血劑等の注射藥の製造を引受けた、第一回は百五拾萬円位で此の分の所要資金百萬円を七十七銀行より借受け製造納入した。第二回の入札も取つたので其の資金や給料に關する問題もあり當社勞組に對し、支店長は其の支拂資金を確約した。併し支店長はそれを實行せず放置しておいた、其のため從業員大いに怒りスト强行にまで發展したが當社の状況を知るに及んで他の友誼組合の協力のもとに銀行と交渉したが遂に第二回分の資金は出ず放棄のやむなきに至つた

昭和二十七年四月 米第八軍よりの入金されるを知つた勞組は當社主腦部に無斷で市井辯護士と相談、同辯護士も確答を與えたものか當社從業員八〇%が一度に退社し、同辯護士も保證して勞金より保證金を借りうけ該入金を仮差押して從業員の未拂給料と退職金に充當しようとした、勿論退社從業員も各自相當額の訴訟費用を負擔した。併し此の訴訟は從業員側の敗訴となつた。一方会社側に對し銀行は斯様な從業員のいる会社には今後は絶對融資できぬと云う事で、融資の見透しも出てきたのに融資打ち切りを云え渡され、事實上の工場閉鎖を余儀なくされた然し、辯護士は此の代金は取れるという事で細密な調査研究もせず從業員を約七十名も一度に退職させ且つ從業員からは給料未拂で、乏しい處より實に貴重な金を集めて爭いそれが敗北し一文も取れぬことになり且つ会社も多額の負債（銀行以外からの）をもちながら閉鎖され無一物となつても責任はないものであろうか、若し、あの時会社側にも大顧辯護士も居つたのであり何等か協力的な手を打てば斯様な惨狀にはならなかつたと思う。しかも市井辯護士は更に会社に破產を申請し死人に鞭打つ様な行爲をして居る之が辯護士の天職であろうか

昭和二十七年五月 女寶藥家竹內藤惠氏等と協力して資本金壹千万円のホシチエーン株式会社を創立副社長となる

昭和二十七年十二月 ガンマーの防疫劑がγ—BHCアップされてきたので其の製品の製造と販売をなすべく、新星藥品の工場を借受け常磐製藥株式会社を發足した（資本金壹百萬円）

昭和二十八年三月 ドイツにて好評だつたリンデン（γ—BHC異性体）を電球熱にて燻蒸すると室內の蚊、蠅、蚤、其の他の害蟲が全滅するという事を知り早速その製造販売を常磐のガンマー錠という名稱にて開始す。大變な好評で販売實績大いに上がつた

昭和二十八年三月 此の實績を見て元の川崎財閥川崎定德会が出資を希望してきたので資本金を參百萬円に增資し元川崎第百銀行常務成田儀六（川崎御曹子の叔父）と元川崎定德会代表取締役長岡保良の二人が会長社長となり駒木根が專務となり三人代表取締役にて川崎側は資金面を擔當することにて会社內容も強化す

昭和二十九年二月 中村瀧商店と一ヶ年壹億円売上の契約をなし工場も充實し大量生產販売を開始す

昭和三十年二月 中瀧商店營業不振により約八億の負債をもつて破綻す、當社約八千萬円の手形を受取るも其の內二千五百五十萬円不渡となる、現品其の內部計算により一六〇〇萬円の債權となりたるも當社は全部銀行で割引なしていたので預金七百万円は銀行肩代りとなる

本年は本債權の回收に努力せしも回收金全然見込がなかつた、然し當社の支拂金は中瀧の破綻にもかゝわらず手形割引により、大半の支拂は完了して居たので受手を割引した金融機關以外は迷惑はかけなかつた、

昭和三十年九月 磐城市の專売公社小名濱工場より年額約一萬Kgの苦汁が放出されていることを知り當社工場長伊藤が戰時中、保土谷化學の小名濱工場長として海水よりブローム（臭素）を取つた日本的な技術者であるので二人で專売公社へ行つたり各方面を調查して年額參千萬以上の收益をあげ得る有力な資源開發事業であることを知り其の資金面の手當と苦汁の拂下げ工場用地の確得に更に細密な調査研究をなす其の結果最終的には中小金融公庫開發銀行等の財政資金の使用が可能となり當面の設備資金等も三人も大口出資者も確得出來た又用地も公社工場の東隣地に三五〇〇坪以上入手の見透もつき苦汁も拂下げ可能の內諾を得た

其の結果早急に常磐化成株式会社の創立準備に入る

昭和三十一年一月十日 磐城市長より用地三六〇〇坪の用地斡旋と便宜供與の協力書を專賣公社小名濱工場長より昭和三十一年十月十八日苦汁拂下げの承諾書を受取る

昭和三十一年二月 資本金貳百萬円也の常磐化成株式会社を創立不取敢社長に就任

昭和三十一年六月 杏林製藥社長荻原廣氏会長就任、製品販売を條件に不取敢貳千萬円を融資することを承諾したので出資者を一人にしぼり 彼の資產約二十億円とのことにて）早速用地買上を其の他の工場建設設備機械購入の契約を開始す

工場用地中に地籍のない國有地のあることを發見し、直ちに工場建設不能なるを以つて財務部より該地所拂下げの内諾を得るのに二ヶ月を要すると云う事にて六月末市側並に實質的所有者草野との間に手形による決濟にて該地所を買收す

其の後磐城市並に草野等の該地所二重売事件となり訴訟となり今日に到る

# 玉川農協第一位

## 昭和卅一年度 新契約二十億突破記念

## 第二回 縣下農協共濟事業大会

福島縣共濟農業協同組合連合会では四月十六日福島市に於て大会を開催されました其の後玉川農業協同組合は縣下第一位に相成りました、契約高参千六百五十万円であり一戸平均十七万七千百九十円であります、それで玉川農協で渡邊最氏、泉農協では吉田帝光氏兩名が表彰されました玉川農協は再建整備の組合を縣下一位迄こぎつけ会組合長駒木根忠三氏の献身的努力には感佩した、加ふるに役職員一同協力晝夜兼行の奮斗の賜であります、玉川農協の組合員の皆々様喜んで下さい組合長は本年は自己資金で肥料代金を前拂して農手を借りないで實行して見たいと申して居ります。他の組合農手借入れて弥走して居ります、組合長曰くまだ〳〵組合員貯金は泉組合より少々でありますから尚一層の御協力を御願いすると申して居りますのでありますから玉川農協の皆々様貯金に協力して下さい。筆者よりも御願い致します

（寫眞は駒木根忠三氏）

# 矢吹派、松本派が競り合ひ 磯野を常磐市長とした

## 保守派の自戒を要す

常磐市長選は五月四日行われたが予言通り社会党公認の前常磐炭勞組長の磯野清治氏が當選した

| | |
|---|---|
| 有權者數 | 一二二、四五五 |
| 投票數 | 一〇〇、八二一 |
| 無効 | 二一九 |
| 七、三九九 | 磯野清治 |
| 五、八八一 | 矢吹莊司 |
| 五、八三四 | 松本久吉 |
| 一、五八八 | 日野定利 |

右の結果で數字がものをいうこの結果となる事は四氏が立候補した時既に判り切つた事で、社会党が選擧上手でなく保守系が感情にとらわれ、勘定が小學一年に劣る馬鹿さ加減から來て居る、矢吹派、松本派が一丸化し得なかつた事に因がある、その事前工作が出來得ず河野一郎さんや、高木松吉翁が矢吹さんの應援に來ても組織には勝てぬ、後の祭りである、天下のもの笑ひとなつた保守系殊に民自黨は自戒すべきである春秋の論法を以てすれば矢吹派松本派が競りあつて磯野を常磐市長の座に据えた

## 平新紅筆

◆平の華街（はなまち）も八年ぶりで一本化した、櫻祭りにも仲良く花ビラ飛ぶ

松ヶ岡公園舞台で櫻花に競ふて艶舞した◆料亭の方は組合長湖月鈴木信男氏、名譽組合長に松本樓の大谷傳長氏役員は八千代佐藤登美さん小鍛治、谷口さん等

◆一方藝妓屋の方は組合長其の他留狀態だがそのうち決まるだろうとの事

◆藝妓は百〇一妓、料亭は四十四軒一軒に二人半とする◆宴会があると芸妓にありつけない〇〇がある、今少し妓共を增されればという聲があるがヒマの折は御茶を引く妓ある？ との事でそうは簡單に增せぬとは仲家の〇〇の解說である御もつとも〳〵

◆寫眞は四月十八日晝の部高砂丹前（長唄）の熟演の一場面（立方）小ぼたん、おはん 唄 君松、高丸、三子、佐知子、遊子、よう子（三味線）蔦次、小波、二三子 ◆鳴物）小鼓）山路、花賀、ぽんた、小藤（大皮）喜多子（大皷 初彌、たより

## 反響 音信交換

大阪府泉南郡樽井町三〇四五 安藤ナツ

謹啓 永らく御無沙汰致しまして誠に失禮致しました その後皆様にはお變り御座いませんか、私達も無消息致し居りますれば他事乍ら御休心下さいませ、又此の度は色々と銅像の件につき御高配賜り厚く御禮申上げます。お蔭をもちまして先日諸橋様名義の領收證私宛に御送附頂きその際にて色々と御氣をわづらわした事と存知ながら御承知の通り、私儀無筆者にて本日になりました事深くお詫び申上げます。非常に簡單ではございますが取敢えず御禮までと存知まして取急ぎ一筆したゝめました次第にて、この御無禮は何卒お怒りなく今後共よろしく御厚情の程お願い申上げ最後に蔭乍ら皆々様の御多幸をお祈り申上げます 草々

昭和卅二年四月廿二日

## 堀内家山野邊電機商会の慶事

泉堀内武夫氏の次男敏行氏は平市北白土山野邊程知氏（平市南町山野邊電機商会）長女良枝さんと婚約成り大東相互銀行創設者顧問小宅嘉久治氏御夫妻の媒妁で四月廿七日結婚式を擧げた新郎は前田建設KK本社勤務

## 佐川ミヤノさん

（常磐市西郷字大夫佐川賢吾氏夫人）は去月十二日永眠され仝十四日葬送さる

## 箱崎良一さん

（常磐市西郷字金山箱崎新吉氏長男）去月十四日永眠され仝十六日葬送さる

## 編輯後記

（平新報編輯人）

一、本號から雜誌型にする予定であつたが永續性なしと觀念したので從來通りのものを刊行

左の記事は次號

一、新報直言、擔當赤井岳子
一、磐崎中學校職員移動
一、西郷の區劃整理も一意氣だが後にシコリを殘すな
一、內郷礦の採炭中止延期
一、小濱長太郎翁の美擧と奉仕
一、農村電話設置に推進草野局の阿部昭男さん